

強化に向けた視点

現状

取組の方向性

選考要件の明確化

以下を応募要件として設定し、作文、筆記試験、英語面接、グループディスカッションにより選考。

- ・年齢（18歳～30歳）
- ・語学力（交流活動を円滑に行える英語力）
- ・その他（帰国後も社会貢献活動を行うことが期待できる、全日程参加）

- ・育成する人材像に対応した試験の導入
（例）未来志向、多様性、影響力、国際・地域感覚、社会貢献等の視点を踏まえた選考の実施
- ・多様性を重視した採用枠の設定
（例）文化・芸術、ものづくり等の特定のスキルを持った者を選考する特別な採用枠を設定

より多くの応募のための広報戦略

- ・OB・OGからの紹介の割合が非常に高い。
- ・大学へは個別に事業説明会の案内実施。
- ・経済団体に対する直接の広報戦略は採っていない。
- ・内閣府HP、Facebook、Twitter、Instagramを用いた広報を実施。

- ・様々な主体への働き掛け
（例）経済団体向けの広報実施、文化・芸術団体、障害者団体等を通じた広報の実施
- ・より多くの人の目に触れる広報の実施
（例）YouTubeやSNSを活用したPRの実施

様々な人が参加しやすい環境の整備【日程の設定】

- ・航空機事業は概ね2週間程度、船事業は概ね2か月程度の連続した期間での実施
- ・学生8割、社会人2割程度の参加、地域、男女比にも偏り
- ・参加費は一部経済的理由による免除規定あり

- ・仕事や学業との両立が可能となるような交流期間・時期の設定と分散化
（例）中長期のオンラインによる研修・交流の後、短期集中型の対面交流を実施
経済団体の研修制度への適用等の協力依頼
- ・様々な環境にある者が参加できる環境を整備
（例）経済的理由による自己負担の軽減、地域にとらわれないオンラインによる試験の実施、障害者への配慮

効果的なプログラムに向けた取組（イメージ）

強化に向けた視点

オンライン・リアル
のハイブリッド
“密な交流環境”の
創造

様々な人が参加しや
すい環境の整備、日
程の設定【プログラ
ム整備】

国事業として特色
ある事業設計

現状

- ・オンライン交流では、ディスカッションが中心のプログラムで隙間時間の創出等に課題。
- ・船事業では、共同生活を通じて、効果的に密（親密な関係構築）な交流環境を創造できている。
- ・一方、長期間・密室空間の環境下のため、感染症等のリスクが高く、コロナ禍では航行ができていない。

- ・航空機事業は概ね2週間程度、船事業は概ね2か月程度の実施期間【再掲】
- ・学生8割、社会人2割程度の参加、地域、男女比にも偏り【再掲】

- ・多国間、2国間の交流プログラムを実施
- ・総理表敬等を実施
- ・寄港地の国家元首等との面会を実施
- ・本プログラムに参加する青年以外への取組としてオープンシップ等や事業報告会を実施。

取組の方向性

- ・オンラインプログラムと対面交流を組み合わせた“密な交流環境”の創造
 - ・大きな体験、感動を生むオンライン交流と対面交流の一体的実施
- (例)
- オンライン交流
- メタバース空間を活用した生活・文化・風習を学ぶことができるプログラム
 - アクティビティの導入
 - 対面交流時のプログラム企画などのチームビルディングプログラムの導入
- 対面交流
- チームビルディングで企画した社会貢献活動を地域でリアルに実践

- ・仕事や学業との両立が可能となるようなプログラムの複線化
- (例) スキルに差がある者に応じたプログラムの設定（スキルのある社会人はプログラムの一部免除等）
- ・仕事や学業との両立が可能となるような交流期間・時期の設定と分散化【再掲】
- (例) 中長期のオンラインによる研修・交流の後、短期集中型の対面交流を実施
- ・多様性を持った参加者を見据えた設計
- (例) 障害者への配慮

- ・世界中の様々な地域から10カ国程度の意欲ある海外参加青年の参加を確保
- (例) ASEAN、世界の多国間での大規模なプログラムを継続
- ・複数の海外参加国の政府高官等との面会機会の創出
- (例) オンライン会議を活用した複数国の政府高官等との面会機会の創出
- ・次世代リーダーとして未来志向での検討課題への取組を実践
- (例) 地球規模課題をテーマとし、青年代表者と各界有識者や政府幹部等との討論会を実施
- ・参加青年以外にも広く国際交流体験の場を提供する工夫
- (例) 参加青年が企画して、一般参加者に一日限定で国際交流体験の場を提供する「ワンデイ・国際交流プログラム」を実施